

1 単元名 世界へ知らせよう わたしたちの元城

相手のことを考えて情報を発信し，情報社会に進んでかかわる

2 単元の目標

目標

情報通信産業について調べることを通して，わたしたちの豊かな生活のために情報・通信の役割が大きいことを理解し，情報を有効に受信したり発信したりしようとする能力や態度を身に付ける。

目標分析

行動の要素 内容の要素	A 情 意	B 認 知		C 技 能
	興味・関心，意欲，態度	社会的な思考・判断 B 1	社会的事象についての知識・理解 B 2	観察・資料活用の技能・表現
情報通信産業で働く人々 ア	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報通信産業の仕事の内容やそれに携わる人々の工夫や努力を知るために，自分で課題を持ち，意欲的に調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報通信産業で働く人々の願いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取材，編集，報道など，情報通信産業の仕事の内容を大まかにつかむ。 ○ 情報を，正確に，速く，分かりやすく発信するための工夫や努力が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見学・図書資料・インターネットから，情報通信産業の仕事の内容を調べる。 ○ 自分の疑問を文章化し，仕事に携わる人に質問する。 ○ 調べた情報を基に，自分の調べたメディアについて，図や写真などを効果的に使って，パンフレットにまとめる。
情報の働き イ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様なメディアがある理由を身の回りの人の話から考えようとする。 ○ 情報の発信者にはいろいろな責任が問われることを考えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ニーズの多様化により，様々なメディアが存在することが分かる。 ○ 資料を基に，なぜ報道に責任が問われるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要とする情報の種類により，利用するメディアが違うことが分かる。 ○ 真実性・道徳性・個人の尊厳・著作権などの報道の責任が分かる。 ○ 情報の影響を知り，受け手側も思考判断しながら情報を得る必要性があることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料から報道の責任に関係のある部分を見つける。
情報の発信 ウ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私たちの元城を紹介しようと意欲を持って，ホームページ作りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の発信者としての責任を考えながらホームページを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホームページが情報を手軽に世界に発信できる一つのメディアであることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 取材をして，正確で分かりやすい記事を書く。

3 「共によりよく生きる」姿勢を育む授業づくりとのかかわり

「共によりよく生きる」姿勢

相手のことを考えて情報を発信し、情報社会に進んでかかわる

現代は高度情報化社会と呼ばれ、様々なメディアによりいろいろな情報を得たり、インターネットなどで情報を発信したりすることができる時代である。情報は送る相手があってこそのものであり、人と人とのかかわりを深めるものであるとも言える。他からの情報を活用するだけでなく、自分が情報を発信することで、人との新しい結びつきや、互いの共感的な理解が期待できる。

そこで、今後ますます国民生活に大きな役割を果たすことが予想できる情報通信産業について調べていく。情報通信産業の比較検討することで、ニーズにあった情報を発信するため、様々なメディアがあること、また、情報を発信する側の工夫や責任を知ることができるだろう。さらに、実際にホームページを作ることで、情報を発信する側の工夫や問題に目を向けさせていきたい。それにより、相手のことを考えて情報を発信したり、情報に対して責任をもったりすることの大切さに気付かせていきたい。

児童の実態

本学級の児童38名に以下の調査をした。(筆記調査、複数回答)

- 情報を何から得るか？
 - ・テレビ... 30人
 - ・新聞... 15人
 - ・本や雑誌... 10人
 - ・人... 7人
 - ・ラジオ... 5人
 - ・インターネット... 2人
- 情報を伝えるにはどんな役割の人がどんな仕事をするか？
 - ・分からない... 10人
 - ・取材をする人がいる... 13人
 - ・取材やアナウンスなど役割分担がある... 13人
 - ・アナウンサーが取材し伝える... 2人
- 何に気を付けて情報を流しているか？
 - ・分からない... 4人
 - ・言葉遣いや誤読... 22人
 - ・内容のわかりやすさ... 4人
 - ・真実かどうか... 5人
 - ・人に危険なことを優先... 2人
 - ・報道してもいいか... 1人

この結果から、情報をよく利用しているものの、アナウンサーやADなど漠然とそういう役割の人がいるらしいと思うだけで、詳しく役割や仕事の内容を理解していないことが分かる。また、情報を間違えて伝えることがどんなに被害を与えるかについてまで考え及ぶ子はほとんどいないことがわかる。

創意工夫のある教材開発・構成

情報が国民生活に欠かせないものであることを知るために
情報通信産業には様々なメディアが存在する。どのメディアはどんな人にどのように使われているかを調べることで、その違いを比較させ、情報が国民生活に深く関わりがあることに気付かせたい。そのため、グループ別にメディアを選択し、調べ学習を行い、比較検討会を開く。

情報通信産業に携わる人々の工夫や努力の実感のために
情報を伝えることには真実・モラル・個人の尊厳など、責任が問われる仕事である。そのことにふれさせるため、実際に現場で働く人の声を聞かせたい。そのため、校外学習やインターネットメールでの質問などを行う。

情報を発信することの楽しさを味わわせるために
情報を発信することは、責任が問われることであるが、その情報が誰かの楽しみや助けとなっていることで、発信した喜びを味わうことができる。将来よい情報の発信者としての姿勢を身に付けるため、インターネットホームページで情報を発信する経験をさせる。

基礎基本の確実な定着

本単元における基礎基本として、次の2点を押さえる。

情報通信産業について見学したり資料を活用したりして調べる。
テレビ、新聞、ラジオなどから一つのメディアを選択し、その仕事に携わる人の努力や工夫を中心にまとめていく。それらの苦労が、情報を発信する相手あってこそであることに気付かせたい。

情報の有効な活用を考える。
情報を発信する側の責任について、いくつかの資料を基に考えさせる。そして、それを踏まえた上で、自分たちが情報を発信する際に気を付けなければならないことを話し合わせる。そうすることで、情報の適切な収集や活用、発信や伝達の仕方などの能力や態度を身に付けさせたい。

4 指導計画と本時の位置

(15 時間扱い)

学 習 活 動	自分意識	一人一人が生きる支援	目標群 (評価方法)
<p>1 小学校のホームページを見よう。 (1 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本各地の小学校の様子をホームページで知る ○ 自分たちも元城小を紹介したいという気持ちを持つ。 ○ 情報を発信するにはどうしたらよいか予想し、学習計画を立てる。 	<p>自分が情報発信することに意欲を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童がホームページ作りに関わっているサイトを事前に準備し、自分たちもやってみたいという気持ちを持たせる。 	<p>ウ A (観察) ア A (発表)</p>
<p>2 情報通信産業について調べよう。 < 体験 > (5 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ局の仕事を V T R や資料から知り、どのような経過をたどって情報がわたしたちの所に届くかをまとめる。 ○ 新聞、ラジオ、電話の 3 グループに分かれ、見学活動や資料を基に、テレビと比べながらパンフレットにまとめる。 ○ 情報通信産業に携わる人に、仕事の工夫や苦勞をメールで質問する。 	<p>情報通信産業について調べ自分が情報発信する上で必要な仕事を知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人のメディアとの関わりを問いかけ利用度や関心度の高いメディアを調べさせる。 ○ 見学や図書資料、インターネットを情報収集に活用させる。 ○ 情報を発信する工夫や苦勞に関わる質問が出るように配慮する。 ○ 総括的にまとめるのではなく、働く人の声を中心に自分が驚きや興味を持ったことを中心にまとめさせる。 	<p>ア A (メモ) (観察) ア B 1 (メモ) ア B 2 (メモ) ア C (観察) (パンフレット)</p>
<p>3 情報通信産業を比較しよう。 < 共感 > (2 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ どんな人がどんな時にどのメディアを活用するか話し合う。 ○ いろいろなメディアの共通点や相違点を考える。 ○ 情報を発信する側に共通した工夫や努力があるか話し合う。 	<p>相手あつての情報であることに気付く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4 つのメディアの違いを、教師の問いかけから意識させ、話し合いで深める。 ○ 1 つのメディアにしかよさを感じていない子には、違う方のよさを感じている友達と意見交流をさせる。 ○ 情報を発信する人の工夫や努力から、自分たちのホームページ作りに役立てることができることを共感させる。 	<p>イ A (観察) (発表) イ B 1 (発表) (ノート) イ B 2 (発表) (ノート)</p>

<p>4 情報を発信するにはどんなことに気を付けるか考えよう。(2時間)</p> <p>○いくつかの資料から、情報を伝えることには責任が問われることに気付く。</p> <p>【真实性・道徳性・個人の尊厳・著作権など】</p> <p>○自分が、ある情報によって間違った理解や判断をしてしまった事例を思い起こす。</p> <p>○情報を発信するには、どんなことに気を付けなければならないかまとめる。</p>	<p>自分が情報発信する上で気を付けることを考える。</p>	<p>○犯人と誤報された例、誘拐事件を隠していた例などを教師から紹介し、似たように報道の責任が問われる事例を探させる。</p> <p>○様々な事例と前回の学習をつないで、情報発信の責任に気付かせる。</p>	<p>イA (観察) (発表)</p> <p>イB1 (発表) (ノート)</p> <p>イB2 (発表) (ノート)</p> <p>イC (観察)</p>
----- 本 時 (14 / 15) -----			
<p>本時の目標 報道の責任を意識し、受信者が読みやすく分かりやすいように、下書きの記事をホームページに清書することができる。</p>			
<p>5 ホームページを作ろう。<体験> (5時間)</p> <p>○どんなホームページにするか話し合い役割分担をする。</p> <p>【ホームページの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元城小の行事紹介 ・元城校区の自然，施設の紹介 ・町の名前の由来の紹介 ・浜松の風土の紹介 ・学習の成果の紹介 <p>○グループごとにデジタルカメラで取材したり，記事を書いたりする。</p> <p>○ホームページの下書きかく。</p> <p>○キューブワード上で，記事を完成させる。</p> <p>○元城小ホームページに組む込み，情報発信する。</p>	<p>自分の情報を発信する</p>	<p>○わたしたちの元城を共通テーマとして，自分たちが発信したい内容を，情報発信の約束を基に話し合い決定する。</p> <p>○創意の時間と国語科を合科的に扱う。</p> <p>○テレビや新聞の仕事の分業制に習い，グループ活動を行う。</p> <p>○情報を受信する側の気持ちに立って作業を常に見直すようにさせる。</p> <p>○情報発信の楽しさが味わえるよう，注意・強制の声かけはやめ，共感・賞揚の声かけをする。</p> <p>○学校あてのメールにこのページの感想が届いたら，児童に紹介し，お礼のメールを出させ，人と人のネットワークができることに喜びを感じさせる。</p>	<p>ウA (観察)</p> <p>ウB1 (観察) (ホームページ)</p> <p>ウB2 (観察)</p> <p>ウC (ホームページ)</p>

5 本時の主張

本時は、インターネットホームページを作る作業の中の4 / 5時に当たる。ほとんどのグループが記事の下書きを完成させ、パソコン上でその記事を載せている段階である。パソコン操作の難しさで情報発信の楽しさを損なわないように以下の点を工夫する。

- ・使い慣れているハイパーキューブでホームページ作りをする。
- ・自分たちが撮ったデジタルカメラの画像を自由に盛り込ませる。